

学科試験の問題及び解答についてのお問い合わせには一切お答えできませんので、予めご了承ください。  
なお、合否結果は、2021年3月に発表し、本人に通知いたします。

2020年度 技能検定 ハウスクリーニング職種 学科試験問題

問 1. 厚生労働省の「快適で健康的な住宅に関するガイドライン」の項目として誤りを選びなさい。

1. 給排水設備の維持管理に関するガイドライン
2. 臭気対策ガイドライン
3. 騒音・振動ガイドライン
4. 気温・日照ガイドライン
5. 照明についてのガイドライン

問 2. 室内環境において厚生労働省が示すホルムアルデヒドの基準値を選びなさい。

1.  $0.001 \text{ mg/m}^3$  (=0.0008 ppm)
2.  $0.01 \text{ mg/m}^3$  (=0.008 ppm)
3.  $0.1 \text{ mg/m}^3$  (=0.08 ppm)
4.  $1 \text{ mg/m}^3$  (=0.8 ppm)
5.  $10 \text{ mg/m}^3$  (=8 ppm)

問 3. WHOが有機化合物の沸点を基にして定義するVOC(揮発性有機化合物)について、誤りを選びなさい。

1. 沸点  $0^\circ\text{C} \sim 50\text{--}100^\circ\text{C}$  の範囲のもの……超揮発性有機化合物 (VVOC)
2. 沸点  $50^\circ\text{C} \sim 240\text{--}260^\circ\text{C}$  の範囲のもの……揮発性有機化合物 (VOC)
3. 沸点  $240\text{--}260^\circ\text{C} \sim 380\text{--}400^\circ\text{C}$  の範囲のもの  
……準揮発性有機化合物 (SVOC)
4. 沸点  $380^\circ\text{C}$  以上のもの……粒子状有機物質 (POM)
5. 沸点  $500^\circ\text{C}$  以上のもの……超粒子状有機物質 (VPOM)

問 4.  に入る記述として当てはまるものを選びなさい。

一戸建住宅より集合住宅の方が  が高いためニオイがこもりやすい。

1. 安全性
2. 換気性
3. 温度差
4. 耐乾性
5. 気密性

問 5. 住居環境について、 に当てはまるものを選びなさい。

結露の被害がしばらく続き、不十分な湿気対策の連鎖現象として、 →  →  という室内環境衛生上の問題が発生した。

1. ネズミの増殖
2. ゴキブリの増殖
3. ダニの繁殖
4. ハエ、蚊の繁殖
5. 埃の激増

問 6. 防カビ対策で誤りを選びなさい。

1. 水蒸気の発生を抑える。
2. 換気により湿気を排出する。
3. 除湿により絶対湿度を下げる。
4. 温度を上げて相対湿度を上げる。
5. 薬剤を用いてカビの発生を防止する。

問 7. チャバネゴキブリに関する記述として誤りを選びなさい。

1. 25℃から 31℃の範囲の温度を好む。
2. 冷蔵庫のモーター部分にもいる。
3. ガスレンジ、テレビ、配電盤などに潜む。
4. 20℃以下では発育できない。
5. 10℃以下では発育できない。

問 8. 厚生労働省「給排水設備の維持管理に関するガイドライン」の内容に関する説明で正しい記述を選びなさい。

1. 危険または有害な物質を排水管に流しても良いが、PRTR法に基づききちんと管理報告する。
2. 衛生器具類の排水口の目皿及びトラップ、台所流しのゴミかご、洗髪洗面器の毛髪粗集かごなどは、使用頻度が高いため不具合が出てからの対応が好ましい。
3. 衛生器具・排水管等の洗浄剤は効果的に使用する。便器等の掃除に用いられる酸性の洗浄剤は、塩素系製剤（漂白剤やカビとり剤）と併用すると良い。
4. 酸性の洗浄剤や、塩素系製剤（漂白剤やカビとり剤）は原液のまま使用して排水しても、下水処理施設で薄められるので問題は無い。
5. 台所流し・排水管等の掃除に用いられるアルカリ性洗浄剤は使用に伴い熱を発生することがあるので、火傷しないように適切に使用する。

問 9.  に入る記述として、当てはまる語句を選びなさい。

計で測定された数値を  レベルといい、単位としてデシベル(A)またはホーンを用いる。

1. 音
2. 周波数
3. 音色
4. 振動
5. 騒音

問10. 汚れについての記述で、誤りを選びなさい。

1. 住まいで発生する汚れの発生原因は、主に「人為的要因」である。
2. 人為的要因の汚れは、人が生活する上で発生する様々な汚れであり、台所の油汚れや浴室の石鹼カスなどがある。
3. コーヒーやお茶による汚れは水溶性物質であり、水に溶解または分散しやすいため、水でも比較的容易に除去される。
4. 食用油による汚れは油脂性物質のため、水だけでは除去できないので、洗剤を使用し除去する。
5. ガスコンロに付着する焦げ付き汚れは、洗剤だけでは容易に除去することができないので、ヘラなどで削り取る等の物理的作業との併用が必要となる。

問11. 汚れの性質と除去方法に関する説明として正しい記述を選びなさい。

1. 油脂性物質の汚れには、食用油や肉・魚等の油脂、クレヨンや口紅等によるものがあり、これらは水だけで除去できるものがほとんどである。
2. 固着物の汚れには、ガムのかみかすやガスコンロに付着する焦げ付き等によるものがあり、洗剤は不要で「ヘラなどで削り取る」等の物理的作業で除去される。
3. 粉状物質には、衣類から発生する綿ホコリ、外から風などで持ち込まれる土ホコリ、花粉などがある。研磨、漬け置きや漂白等の作業により、比較的容易に除去ができる。
4. 泥汚れ、コーヒー、お茶等の水溶性物質の汚れには、時間が経つと水溶性でなくなるものもあり、中には漂白をしないと除去できないものもあるので、早めに除去する必要がある。
5. 水溶性物質の汚れには、泥汚れ、コーヒー、お茶等によるものがあり、これらは水に溶解または分散しやすいため、炭化水素系溶剤などで比較的容易に除去される。

問12. 汚れの除去方法で、正しい記述を選びなさい。

1. 床に落ちているホコリや髪の毛を中性洗剤で洗浄し除去する。
2. プラスチック素材の表面に静電気で吸い付いているホコリを乾いたタオルで拭き取り除去する。
3. ガムやアメなどが床にべたついた状態で付着したものをアルカリ性洗剤とタオルで除去する。
4. 蛇口のメッキに付着した水垢汚れを材質に影響のない研磨剤で削り取り除去する。
5. 金属面のサビ汚れは、酸性洗剤で洗浄し除去する。

問13. 「家庭用品品質表示法」の分類について、 に当てはまるものを選びなさい。

合成洗剤とは、洗浄の主たる作業が脂肪酸塩以外の  によるもので、これに無機、有機のビルダー（助剤）などの性質向上剤を加えたものをいう。

1. 漂白剤
2. 石けん
3. 界面活性剤
4. 洗浄剤
5. 研磨剤

問14. 「家庭用品品質表示法」における石鹼、洗剤（合成洗剤）、洗浄剤の分類について、正しい記述を選びなさい。

1. 洗浄の主たる作用が界面活性剤によるものは“洗浄剤”に分類される。
2. 洗浄の主たる作用が界面活性剤によるものは“洗剤（合成洗剤）”に分類されるが、“石鹼”は分類されない。
3. 洗剤（合成洗剤）は、洗浄の主たる作用が高級脂肪酸のアルカリ塩を界面活性剤として配合しているものである。
4. 洗浄の主たる作用が塩酸の化学作用による酸性トイレクリーナーは“洗浄剤”に分類される。
5. 洗浄の主たる作用が次亜塩素酸ナトリウムの化学作用によるカビ取り剤は“洗剤（合成洗剤）”に分類される。

問15. 洗剤成分である界面活性剤が持っている次の作用を選びなさい。

水と油は混ざらないが、界面活性剤を入れてかくはんすると、油の粒子が小粒子となって液中に分散する作用。

1. 表面（界面）張力の低下作用
2. 浸透作用
3. 乳化作用
4. ミセル形成作用
5. 起泡作用

問16. 陽イオン界面活性剤（カチオン界面活性剤）について記述しているものを選びなさい。

1. 水溶液中でイオンに解離し、この時マイナスイオンの部分が界面活性剤の働きをする。カーペット洗剤に使用されるアルキル硫酸エステル塩などがある。
2. 水溶液中でイオンに解離し、この時プラスイオンの部分が界面活性剤の働きをする。洗浄力はさほどないが、殺菌剤、帯電防止剤、繊維用柔軟剤などの用途に用いられる。
3. 水溶液中でイオンに解離し、この時プラスイオンの部分が界面活性剤の働きをする。洗浄力が高く、台所用洗剤、洗濯用洗剤などに用いられる。
4. 同一分子内にマイナスイオンとプラスイオンに解離する部分を持っている。洗浄剤、殺菌剤、帯電防止剤などに用いられる。
5. 水溶液中でイオンに解離しないエチレンオキサイドや水酸基を持っている。洗浄力に優れるものがあり、床用洗剤などに用いられている。

問17. 洗剤の液性（pH）についての記述で正しいものを選びなさい。

1. 洗剤の pH は、洗剤液中の「水酸化物イオン濃度」を表したものである。
2. 洗剤の pH は、水溶液中の「水素イオン濃度」を表したものである。
3. pH の示す値で、7 は中性、7 より数値が低くなるとアルカリ性、7 より数値が高くなると酸性となる。
4. pH が 11 以下 8 を超えるものは弱酸性洗剤である。
5. pH が 3 未満のものはアルカリ性洗剤である。

問18. アルカリ性洗剤の成分として使用されることのある「アルカリ剤」を選びなさい。

1. 塩酸
2. 水酸化ナトリウム
3. エチルアルコール
4. 次亜塩素酸ナトリウム
5. アミラーゼ

問19. 中性洗剤に関する説明で正しい記述を選びなさい。

1. pH8.0～。通常の汚れの除去に対応する。使用後はすすぎを十分に行う必要がある。白木やアルミニウムへの使用は注意が必要である。
2. pH6.0 以下。便器のし尿汚れ、鉄分による水垢等のしつこい汚れに対応。使用時は手袋必須。塩素系漂白剤との併用は避ける。
3. pH6.0～7.0。作用がマイルドであるため多様な材質に対して使用できる。ひどい汚れに対しては洗浄力がやや弱い。
4. pH9.0～11.0。浴槽・浴室の床、壁、イス、洗面器などの石鹸カスや湯垢の除去に使用する。塗装面や大理石などの石材は傷めてしまうので使用を避ける。
5. pH10.0～。浴室の衛生陶器やタイル目地に発生したカビの除去に使用する。使用する際はマスク、保護メガネを付け、換気に注意する。

問20. 洗剤成分である漂白剤の性質で誤りを選びなさい。

1. 漂白剤には、酸化型と還元型がある。
2. 漂白剤の酸化型には、塩素系と酸素系のものがある。
3. 漂白剤の分類では、次亜塩素酸ナトリウム（次亜塩素酸ソーダ）は、酸化型の酸素系に属する。
4. 次亜塩素酸ナトリウム（次亜塩素酸ソーダ）は、漂白効果に加え殺菌効果がある。
5. 還元型の漂白剤は、鉄サビ等、酸化によって出来た汚れを還元し除去する。

問21. クエン酸の特性についての説明で誤りを選びなさい。

1. レモンや梅干し、柑橘類などの果物に多く含まれる酸っぱさの素の有機酸の一つで、無害の食品添加物である。
2. 揮発臭で水にやや溶けにくいだが、安全な物質である。
3. 酸性物質なので、水垢や石鹼カスなどのアルカリ性の汚れを分解する働きをする。
4. 酸性のため鉄などの金属に使用するとサビの原因となる。
5. トイレ内の壁面等の拭き掃除や便器内の水垢取り、さらに、クエン酸をカップに入れて置いておくと消臭剤にもなる。

問22. 重曹の特性についての説明で誤りを選びなさい。

1. キッチンのしつこい汚れ落としに最適であり、風呂場の洗浄、消臭にも適している。
2. 磨き粉（研磨剤）として汚れを擦り落とす働きがある。
3. 水に少し溶け、2%水溶液は pH8.2 のごく弱いアルカリ性を示す。そのため、酸性の汚れを中和する性質がある。
4. アルミニウムに使用すると黒ずむので使用してはならない。
5. 酸性物質であるので弱アルカリ性物質と同時に使用してはならない。

問23. 塩ビ系床材のメンテナンス性質について、 に当てはまるものを選びなさい。

は、樹脂ワックスの密着性に劣り、また弾力性が高く歩行など外部からの衝撃により床材が変形しやすいため、樹脂ワックス被膜が厚くなり過ぎると、樹脂ワックス皮膜の割れや剥がれが生じる場合がある。

1. ホモジニアスビニル床タイル
2. コンポジションビニル床タイル
3. 長尺塩ビシート
4. インレイドシート
5. クッションフロア

問24. 樹脂ワックスを塗り重ねる際に、仕上がり不良として発生することのある「艶ボケ現象（部分的または全体にわたって白く艶がボケる現象）」が起きやすい条件を述べているが、誤りを選びなさい。

1. 室内の湿度が高い時
2. 床の温度が低い時
3. ワックスを厚く塗り過ぎた時
4. ワックスを1時間以上乾燥させた時
5. ワックス塗布直後に送風機など強制的に乾燥させた時

問25. 清掃用資機材の記述について、 に当てはまるものを選びなさい。

は、トイレ、台所のシンク、浴室、洗面台などの排水パイプの詰まりを真空の吸引力によって除去する。

1. スポイト
2. 真空掃除機（ウエット型）
3. サクションポンプ
4. ウォータープライヤー
5. コンプレッサー



問26. 「綿パッドクリーニング」の特徴で正しい記述を選びなさい。

1. ウィルトンカーペット洗浄に適している。
2. 汚れの多い場所に適している。
3. 処理後、しばらく時間を置かなくてはならない。
4. 洗剤は強アルカリ性洗剤が最も適している。
5. 無発泡性洗剤を使用することにより、基布まで浸透することでキレイに仕上がる。

問27. 埃を除去するために用いる資機材として最も適していないものを選びなさい。

1. 化繊製パッド
2. 半濡き状態のタオル
3. 水分を含ませたおがくず
4. ダストクロス
5. 超極細繊維のクロス

問28.  に入る記述として、最も当てはまるものを選びなさい。

は、ハウスクリーニングをする場所や、部位の床・壁・家具など水を使用できない場合の除塵に用いる。

1. 養生シート
2. 汚染防止テープ
3. ウエスタオル
4. 養生テープ
5. 化学雑巾

問29. 次のカーペットの素材について、 に当てはまるものを選びなさい。

のカーペットの特徴として、アルカリ性洗剤により、黄変・風合いの変化等を起こすことがあるため、使用はさげなければならない。また、耐摩耗に劣るため、ブラシクリーニング方式で洗浄する場合は、研磨力の強いブラシの使用は避けなければならない。

1. アクリル
2. ウール
3. ナイロン
4. ポリプロピレン
5. ポリエステル

問30. カーペット床材の素材の説明をしています。どの素材か選びなさい。

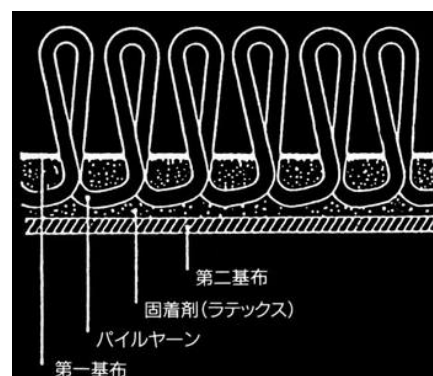
強度に優れ、繊維の中でも最も軽く（比重 0.91）、しかも、酸性やアルカリ性等の化学薬品に強くカビなどにも抵抗力がある。

1. ウール
2. ナイロン
3. アクリル
4. ポリプロピレン
5. ポリエステル

問31. カーペットの製造方法とクリーニング時の注意事項を示した。次の図のカーペットの名称を選びなさい。

洗剤を多量に使用すると、第二基布の材質を傷めるので、パイルのほつれの原因になる。

1. だん通
2. アキスミンスターカーペット
3. ウィルトンカーペット
4. コードカーペット
5. タフテッドカーペット



問32. カーペットのシミ取りについて、正しい記述を選びなさい。

1. 食用油のシミ汚れを落とすのに、油脂汚れ用アルカリ性洗剤を使用した。
2. しょう油のシミ汚れを落とすのに、油性シミ取り剤を使用した。
3. ワインのシミ汚れを落とすために塩素系漂白剤を使用した。
4. カビのシミ汚れを落とすために塩素系カビ取り剤を使用した。
5. 口紅のシミ汚れを落とすのに、油性シミ取り剤を使用した。

問33. フローリング床材のクリーニングの時に発生するトラブルに含まれないものを選びなさい。

1. 異臭
2. 反り
3. ふくれ
4. 変色
5. ヒビ割れ

問34. 次のフローリングについての記述で、 に当てはまるものを選びなさい。

一般住宅に使用される複合フローリングの傾向として、のフローリングが増えている。のフローリングは、塗装表面が硬く傷が付きにくい反面、樹脂ワックスが密着しにくくなっており、特に水の介在による剥がれが起きやすい。

そのため、のフローリングに適合した樹脂ワックスを選定しなければならない。

1. 加熱硬化型塗装
2. UV 塗装
3. オイルステイン塗装
4. 植物オイル系塗装
5. 2液硬化型塗装

問35. リノリウム床について、誤りの記述を選びなさい。

1. リノリウムは、アルカリ性の洗剤類によって変色しやすい床材である。特に、強アルカリ性のハクリ剤によって変色することがある。
2. リノリウムにワックスを使用する際は、ハクリ性に優れた樹脂ワックスを選定し、ハクリ作業の際は、中性ハクリ剤を使用する。
3. リノリウムは抗菌性を有しているが、樹脂ワックスを塗布するとリノリウム自身の抗菌性は大きく低下する。
4. リノリウムは、ビニル床シートと比べ耐摩耗性に劣る。
5. リノリウムは摩耗に強いため、ハクリ作業の際に研磨力の強いパッドを使用しても影響ない。

問36. 次の天然石についての記述で、 に当てはまるものを選びなさい。

は、石英、長石、雲母などを主成分とした天然石で、天然石の中では、耐摩耗性に優れた性質を持つ。風化にも強く、屋外の壁や床の建材にも使用される。

1. 花崗岩
2. 粘板岩
3. 大理石
4. 蛇紋岩
5. 石灰岩

問37. 次の床材についての記述で、 に当てはまるものを選びなさい。

は、種石となる天然石の碎石と顔料などを、セメントや樹脂（レジン）などのバインダーで固め、硬化後表面を研ぎ出した石材。人造大理石とも呼ばれ、大理石同様に耐酸性に劣る性質がある。

1. テラゾー
2. ライムストーン
3. モルタル
4. クリンカータイル
5. セラミックタイル

問38. 次のステンレスの表面仕上げについて、 に当てはまるものを選びなさい。

ステンレスの の清掃で、円を描くような作業を行うと、表面に傷が付いたり、溝の汚れが落ちない場合があるので、必ず筋目に沿って作業を行う。

1. エッチング仕上げ
2. ヘアライン仕上げ
3. 鏡面仕上げ
4. カラー仕上げ
5. つや消し仕上げ

問39. ビニルクロスの洗浄作業について誤りを選びなさい。

1. 弱アルカリ性洗剤を用い、タオル拭きで汚れを除去する。
2. カビ汚れがある場合は、弱酸性洗剤を用い除去する。
3. 汚れが落ちにくい場合は茶色ナイロンパッドなどで擦り落とす。
4. ビニルクロスは濡らし過ぎないようにする。
5. 仕上げとして乾拭き用タオルで素早く乾燥する前に拭き上げる。

問40. 台所のシンク（ステンレス流し台）における洗浄について誤りを選びなさい。

1. シンクに油汚れが見られたため、油脂汚れ用アルカリ性洗剤を使用した。
2. シンクに油汚れの他に水垢汚れも見られたが、軽度であったため油脂汚れ用アルカリ性洗剤を使用した。
3. シンクに付いた水垢汚れがひどかったため、クレンザーを使用した。
4. シンクにサビが見られたが軽度であったため、酸性洗剤を使用した。
5. シンクにサビが見られたため、研磨剤配合の金属用のサビ除去剤を使用した。

問41. ガスコンロについて、正しい記述を選びなさい。

1. 付着した油汚れは、酸性洗剤を使用し、除去する。
2. 焦げ付き汚れは、中性洗剤を使用すれば容易に除去できる。
3. かさ高状の焦げ付き汚れは除去しにくいいため、材質を傷めても汚れを落とすことを優先し、強い研磨力のものを使用する。
4. 錆も軽度であればクレンザーで除去できるが、ひどいものは漂白剤を使用すると効果的に除去できる。
5. グリル排気口カバーや五徳などガスコンロの部品で容易に取り外せる部品は、アルカリ性洗剤に付け置き洗いをを行うと、汚れを効果的に落とせる。

問42.  に入る記述として、当てはまるものを選びなさい。

浴室内の汚れの成分で最も重量比が高いのは、 である。

1. 脂肪酸カルシウム
2. たんぱく質
3. 遊離脂肪酸
4. 脂質
5. 煤煙

問43. トイレの清掃について、誤りの記述を選びなさい。

1. 便器に付着した尿石汚れを落とすのに酸性トイレクリーナーを使用した。
2. 便器に付着した水垢汚れを落とすのに酸性トイレクリーナーを使用した。
3. 便器に付着した水垢汚れを落とすのに酸性トイレクリーナーを使用した。完全に落ちなかったため、用途に合ったクレンザーを使用した。
4. 便座に付着した皮脂汚れを落とすために中性洗剤を使用した。
5. 便座に付着した皮脂汚れを落とすために酸性トイレクリーナーを使用した。

問44. ブラインドのクリーニングについて、 にあてはまるものを選びなさい。

ブラインド（ベネシアン）は の角度を変えることにより光や風の調整、視界の調整を行う。クリーニング時は の折れ曲がりを十分注意し、 を閉じた状態で除塵した方が良い。

1. フラップ
2. スラット
3. ウイング
4. ラダー
5. スリップ

問45. お客様の満足度とクレームに係わる記述について、誤りを選びなさい。

1. 現在は、ハウスクリーニングの技術が優秀でも、競合他社との差別化は難しく、また、技術力だけでお客様に選ばれる時代ではない。
2. お客様との間で質の高いコミュニケーションを築き、信頼していただく関係を創出することが重要である。
3. お客様の満足を得るためには、お客様の真の声を聴くことから始めるべきである。特にお客様の不満の声を聞くことが重要になってくる。
4. お客様の苦情やクレームには対応しなければならないが、常にこちらから声をかけておく等、積極的に耳を傾ける必要は無い。
5. お客様満足の基本は、「お客様の目線でものを見る」というスタンスが必要である。

問46. 労働災害発生の仕組みの説明として□□□□にあてはまるもので正しい組み合わせを選びなさい。

実際に発生した労働災害の原因をたどると、一般的には「□(ア) (不安全状態)」と「□(イ) (不安全行動)」という欠陥 (直接原因) があり、さらにこれらの欠陥があって、それが事故に結びつくに至った作業現場内における「安全衛生管理上の欠陥」(間接原因) がある。労働災害は□(ア) と □(イ) の絡み合いにより発生した事例が多い。

1. (ア) 物的要因 (イ) 人的要因
2. (ア) 状況要因 (イ) 行動要因
3. (ア) 物的要因 (イ) 不安要因
4. (ア) 不安要因 (イ) 不完全要因
5. (ア) 危険要因 (イ) 不正要因

問47. 労働安全衛生に関する説明として正しい記述を選びなさい。

1. 物品の不安定な積み方で荷崩れを起こして下敷きになる事故例も報告されているが、一時的な仮置きの場合には注意を払う必要は無い。
2. 災害発生時の対応措置として、電気機器を使用している場合は、辺りの状況も見ながら、区切りの良いところで止める。
3. 作業手順は、仕事の内容を分析した内容に基づいて、いかに正しく、安全に速く、最小限の労力で行うためには、どうすればよいか、という立場から検討して定められる必要がある。
4. 危険予知訓練と危険予知活動とは内容的に別のものである。
5. 労働安全衛生法は、労働者の安全と衛生を守ることを事業主に求めているが、業務上実施される全ての作業方法から生ずることが予想される危険を防止するための措置までは定められていない。



問48. 洗剤・溶剤・薬品等の安全対策に関する説明として正しい記述を選びなさい。

1. ハウスクリーニング作業では、安全上、洗剤は弱アルカリ洗剤、及び弱酸性洗剤の使用に限定される。
2. 強アルカリ性洗剤と酸性洗剤は何れも、アルカリや酸の作用で作業従事者の皮膚障害等を招く危険性があるので注意を要する。
3. 漂白剤やカビ除去剤として使用される次亜塩素酸ナトリウムは、酸性洗剤との混合で危険な液体が飛散するので、特に注意が必要である。
4. 溶剤（アルコール系、炭化水素系等）は、油汚れや洗剤では除去出来ない汚れに有効であり、危険性も低いので初心者でも安心して使用することが出来る。
5. 安全対策としてゴム手袋さえ着用すれば、洗剤の濃度を指定よりかなり濃くしても構わない。

問49. 次の作業計画に関する記述について、 に当てはまるものを選びなさい。

作業実施手順を作成する際、埃の拡散防止や作業性を配慮しなければならない。また、水周りの部位は、 の視点からの配慮も必要となる。

1. 品質面
2. 安全性
3. 衛生面
4. 室内環境
5. 地球環境

問50. 電気機器を使用するときの記述について、誤りを選びなさい。

1. ハウスクリーニングを行うために使用する機器については、1台当たりの電気容量が1,500W以下の機器を使用するように心がけること。
2. 1つのコンセントから2,000Wまでの機器を使用することができる。
3. 600Wの掃除機を使用する場合でも、掃除機の絶縁抵抗が不良だった場合、主開閉器（ELB）が遮断して、家の中が停電状態になることもある。
4. ドラム延長コードを使用する場合は、巻いてあるコードを全部引き出してから使用する。
5. 機器につながっているコードが短いため、途中コードをつないで使用する場合は、機器のコードと同一のケーブルを使用するとよい。

学科試験の問題及び解答についてのお問い合わせには一切お答えできませんので、予めご了承ください。  
 なお、合否結果は、2021年3月に発表し、本人に通知いたします。

2020年度 技能検定 ハウスクリーニング職種 学科試験解答

問題	解答	問題	解答	問題	解答	問題	解答	問題	解答
問 1	4	問11	4	問21	2	問31	5	問41	5
問 2	3	問12	4	問22	5	問32	5	問42	1
問 3	5	問13	3	問23	5	問33	1	問43	5
問 4	5	問14	4	問24	4	問34	2	問44	2
問 5	3	問15	3	問25	3	問35	5	問45	4
問 6	4	問16	2	問26	1	問36	1	問46	1
問 7	4	問17	2	問27	1	問37	1	問47	3
問 8	5	問18	2	問28	5	問38	2	問48	2
問 9	5	問19	3	問29	2	問39	2	問49	3
問10	1	問20	3	問30	4	問40	4	問50	2